

**オルビス、詰め替え用商品容器の環境負荷がボトル品の約 1/10 であることを確認
～詰め替え商品発売から 20 年の節目にライフサイクルアセスメント調査を実施～**

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社(本社:東京都品川区、社長:高谷成夫)は、主力スキンケア商品の「アクアフォース」について、本体ボトルキャップ商品容器(以下、本体容器)と詰め替え用商品容器(以下、詰め替え用容器)のプロダクト・ライフサイクルにおけるCO2排出量を測定したところ、詰め替え用容器のCO2排出量が本体容器の10.9%であり、89.1%のCO2削減効果があることを確認しました。

これは、同商品の2010年の該当商品出荷比率で換算すると、エコ樹木換算で杉の木を130,422本を植えたのと同様のCO2削減効果(*1)となり、森林にすると156.5ha(東京ドーム33.3個分)の広さ(*2)に相当します。

オルビスは「シンプルを追求し、無駄なものはお届けしない」というブランドコンセプトから、容器包装の簡易化及び環境負荷の低減に取り組み、いち早く1991年から当時の化粧品企業としてはまだ珍しい詰め替え用商品为先駆けとして発売してまいりました。現在では、内容物の形状や品質保持上問題の無いものに関してスキンケア品を中心に積極的に詰め替え用商品を用意し、環境配慮に加え、経済的な面からもお客さまからご好評をいただいています>(*3)

この度、詰め替え用商品発売から満20年の節目を迎え、環境負荷低減の度合いを実数値で把握するために、ライフサイクルアセスメント調査を実施しました。「ライフサイクルアセスメント」とは、商品の環境に与える影響を原材料の時点から廃棄に至るまでの各過程ごとに評価するという手法で、今回はオルビスの基幹スキンケア商品であるアクアフォースのローション容器について本体容器と詰め替え用容器のCO2の排出量を算出し比較を行いました。

なお、今回の測定については国際規格 ISO-14040(2006)およびISO-14044(2006)に準拠したライフサイクルアセスメント調査によって実施され、測定結果の信頼性を客観的に評価するクリティカルレビューの手続きを進めております。

オルビスは1987年の本格的な通販事業の開始当初より“地球に生かされている私たち”の考えを元に、特に包装容器類については「化粧品までお化粧する必要はない」というコンセプトのもと、詰め替え用商品の他、外箱を極力使わない簡易包装を推進してまいりました。その他エコ素材を使用したショップバック、カタログでのFSC認証紙使用、ソイインクの使用、全社的な取り組みとして国内外で長期に渡り継続して社内従業員ボランティアが植林活動を行うなど、様々な環境保護活動に取り組んでいます。

今後も引き続き、少しでも企業活動における地球環境への負荷を低減できるよう努めてまいります。



本体ボトルキャップ商品容器

CO2排出量
89.1%DOWN



詰め替え用商品容器

*1) 杉1本あたり14.1Kg吸収(林野庁HPより)

*2) 森林(杉)1本当りの占有面積:約12㎡/本(「地球環境防止のための緑の吸収源対策」(環境省、林野庁)資料より)

*3) お客さまの93%が詰め替え用商品のことを認知され、95%の方が商品の魅力的特徴として挙げられています。(2010年顧客調査より)

【本件に関するお問い合わせ先】(株) ポーラ・オルビスホールディングス 広報・IR室

Tel 03-3563-5540/Fax 03-3563-5543

参考資料

【各工程ごとの本体容器とリフィル容器の差異優位性について】

	原料調達段階	生産段階	流通段階	使用・維持管理段階	廃棄・リサイクル段階
差異	△	○	◎	△	◎

※差異の考え方は、リフィル容器のCO2排出量が本体容器に比較して1%以下の項目を◎としています。

*** 流通段階、廃棄・リサイクル段階での温室効果ガスの排出削減は地球温暖化防止に非常に有効**

日本国温室効果ガスインベントリ報告書(2011年4月)によりますと、2009年度の温室効果ガス排出量及び吸収量の分野ごとの内訳をみると、温室効果ガス総排出量に占める割合は、①エネルギー分野:90.8%、②工業プロセス分野:5.3%、③農業分野:2.1%、④廃棄物分野:1.8%、⑤溶剤及びその他製品使用分野:0.01%となっています。

さらに上記で一番多いエネルギー分野の温室効果ガス排出量の内訳をみると、燃料の燃焼からのCO2排出が99.2%を占め、うち、液体燃料からのCO2排出が43%と最も多く、固体燃料からのCO2排出(37%)、気体燃料からのCO2排出(18%)がこれに続いています。

液体燃料からの温室効果ガス排出量、すなわち、石油(ガソリン含む)を燃焼させることによる温室効果ガスが温暖化の最も大きな原因となっていることを考慮すると、流通段階(トラック輸送=ガソリン消費)、廃棄・リサイクル段階(ゴミ収集車=ガソリン消費、ゴミ焼却=ガソリン消費)での温室効果ガスの排出削減は、温暖化防止に非常に有効と推測できます。